

今月の一枚



老院追弔会での想いのスライド上映（8月24日、お楽しみ会の会員と順慶寺本堂にて）

◆◆ 前住職の思い出 ◆◆

前住職の葬儀では、葬儀業者が製作した前住職のスライドが山門で上映され、現住職が製作したスライドが庫裏にて上映された。前住職の百ヶ日法要では、本堂にてスライドが上映され、多くの方に披露された。スライドは、QRコードからどうぞ



順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2020年（令和2年）

9月号
VOL.323

◇ 災いに遭遇する源は自分にある ◇

今月の釈尊の言葉も、『ダンマパダ』からの出典です。

「悪い行いの報いが熟するまでは
悪人でも良い目にあうことがある。
しかし

悪い行いの報いが熟したときには

災いにあう。」（第一一九偈）

災いが起こると、ついついどこかに原因がある、人のせいだと責任を転嫁させる私たちですが、実は、その災いに遭遇する源は、自分の行いにあったと指摘されるのが、今月の言葉の意味です。

仏教では、災いに大小三つの種類を挙げています。① 大きい方は、地球規模の災い。小さい方は、人間界の災いです。

後者の小さい災いは、次の三つ。

(1) 刀兵災 互いに凶器をもって殺害する

(2) 疾疫災 悪病が流行する

(3) 飢饉災 干ばつによる飢饉が起こる

これらの災いは、欲をだし我を前面にして



今月のブツダの言葉

悪い行いが熟すれば

やがて災いに遭遇する



生きた結果として、自分を含めた人々の人間生活の中で発生し、広がるものだと考えられています。この災いに遭遇し苦しむ衆生のため、仏が出現し、災いをすくう智慧を授けたと言われるわけです。

◇ 深く弥陀を尊ぶこと ◇

奈良時代、^②聖武天皇が即位した頃、地震や疫病などの災いが相次いで起こりました。聖武天皇は仏教に救いを求め、全国に国分寺や国分尼寺を建立、総本山の東大寺には大仏を建立したことは有名な話です。

若院のテーマカット NO.18



当時から、生前、欲の深かったものは、亡くなると餓鬼道に墮ち、果たせなかった欲をはらそうと邪鬼となつて、疫病や飢饉などを起こし、人々に災いをもたらすとされていました。そのため、仏様を護る四天王は、邪鬼をもれなく捕まえ、踏みつけにし鎮めます。聖武天皇は、少しでも疫病や災いを鎮めるため、大きな仏様の力をいただきたいと考えたのでしょう。

餓鬼道へ趣くことなどは、亡くなつてからの話だと思つと、実は、それでもありません。このところの新型コロナウイルスで問題となつて

いるのは、感染者に対する差別。感染すると亡くなるかもしれないという恐怖と、自分は当事者になりたくないという思い。そうした思いから、罹患者と未罹患者との間に軋轢を生

み、双方の心に餓鬼を生んでしまつています。

かつて、蓮如上人には、市中に感染が広まった伝染病で多くに人が亡くなった時節にあたり、有名な『疫癘の御文』を残しています。

その中で、亡くなることは生まれて以来決まっていることなので、驚くべきことでない。苦しい伝染病で亡くなったことを悲しみ、憎む心には、餓鬼道へ進む苦しみが見え隠れする。それは、極楽に進む道ではないと。

「極楽に往生すべしとおもひとりて、一向一心に弥陀をとうときことと、うたがうところつゆちりほどももつまじきことなり」(『疫癘の御文』より)

私たちは、阿弥陀様のお心に触れさせていただき、心穏やかにさせていただくほかにないように思います。

①【大の三災】

成立、存続、破壊を繰り返すという古いインドの伝説由来の世界観に基づき、世界が破壊される最後の期間に、七つの日輪が現れ、最初の大火災が起こるとされる。大火災が七回起こった後に、一度の大水害が起こり、その後大風害が発生すると、全てが破壊され無くなる空劫という時代を迎える。空劫は、新たな世界が成立するまで続くと考えられている。

②【聖武天皇】

奈良時代の第四十五代天皇。文武天皇を父、藤原不比等の妻・宮子を母、藤原不比等の娘・光明子(光明皇后)は皇后とする。七十四年即位。積極的に唐代の文物制度を採り入れて国政の充実に努めた。仏教を信仰し、国分僧尼寺を建立し、自ら書写した経文を納めた。東大寺を建立し、奈良大仏を鑄造して天平文化をつくりだした(ネットより)。

念仏を欲ぶ人 妙好人の世界

[第97回]

《味おうてくれ》
ものだね きちべえ
物種 吉兵衛
(5)

《妻・のぶの介護》

堺の妙好人・吉兵衛は、真宗の教えに目覚め、脇目も振らず、打ち込んだため、妻のぶには、大変な苦勞をかけました。

とにかく、聞法に出かけると、家のことはいつこうに省みず、一人娘が亡くなったときも京都を歩き回っていたといいます。こうした、吉兵衛の行動に、のぶは呆れかえってしまいますが、次第に吉兵衛と聞法を共にする同行が訪ねてくる機会が増え、彼らをおもてなしをさせていた

だく間に、次第に感化され、のぶ自身も同調していったようです。

そんなのぶが、六十歳を過ぎて中風になり、寝たきりになったとき、吉兵衛は、一人のぶの看病をしました。もちろん、同行から手伝いをしようとの声もかかりましたが、それを断り、吉兵衛は、嫌な顔一つせず、看病しました。これまで、自分のワガママを通していただいたお礼もあつたのですが、やがて極楽浄土に帰られる身として、心からの敬いもあつたのでしょう。

のぶは、半年、床について、亡くなりました。もちろん、介護は、現代以上に大変なことは間違いありません。大家族で分担するのが当たり前でした。しかし、吉兵衛には、一人妻を看取った慶びを噛みしめ、心よりお念仏申しました。

《第五回 声明》

大学では仏教の教えはもちろんですが、お経の読み方についても勉強します。いわゆる「声明」を伝統通りに読むことの意義はなんでしょうか？

先生は盲目のピアノリスト井伸行さんを引き合いに出して説明してくれました。彼は全く譜面通りに弾くのではなく、また自己の主張を前面に出して弾くのではない。曲と作曲者に対する尊敬の念を感じる、そうです。前述した意義についても同じように考えられないでしょうか。

子と共に

ドンマイ

お盆が過ぎ、今日は老院の追弔会と百ヶ日という中、「今日が一区切りだから」と、前もってあれこれと準備をし、支度を整えたつもりでしたが、大事なところで、言い訳のできない失敗をしてしまいました。

何とか百ヶ日法要が終わり、ひと息ついたところに、一人しょんぼりと肩を落としていると、それを見た娘が

「お母さん、ドンマイだよ！」と声をかけてくれました。

普段は、何事も知らんぷりの娘ですが、こちらが言い訳を並べる前に、心の内を察して、思いがけず温かい言葉をかけてくれました。

「律子さん、しっかりね」

と、優しくおじいちゃんの声も、どこからか聞こえるような気がします。

佳帆子

マイペースの受験生。
早めの二学期スタート。



順慶寺執事

法名並びに名簿一覽

祠堂新規上納者並びに俱会一処該当事

来たる九月十二日(土)に順慶

寺において、秋季永代経(過去五十年間に祠堂金をあげて下さった方々への法要)が開催されます。

また、午後からは、今年五十回忌を迎えて、当山に納骨された方々の俱会一処式も行います。

昨年度(令和元年度)令和元年九月より令和二年八月、新たに祠堂金を順慶寺にお上げ下さり、御紐解き法要(祠堂開き)を執行させていただいた方々(または執行予定の方も含む)は、以下の通りです。

新規祠堂上納者一覽(敬称略)

- 為 生前祠堂 願主 山本洋子(一里山組)
- 為 生前祠堂 願主 白澤敏夫(豊明市)
- 為 生前祠堂 願主 白澤直子(豊明市)
- 為 積徳院釋尼燈思 久野銈子 願主 久野茂(市場上組)

為 賢修院釋尼久安 神谷久子

願主 神谷昭好(市場上組)

為 誠修院釋忠敬 横山忠明

願主 横山美明(山ノ端組)

為 釋尼淨縁 木村つや子

願主 山本幸彦(知立市)

為 釋増縁 峯増次郎

願主 釋尼華念 峯花子

釋高顕 峯高義

釋尼千縫 峯八千代

願主 峯敏博(西丘組)

為 香蓮院釋尼菊華 岡本喜久子

願主 岡本憲幸(今川西組)

為 慈敬院釋尼貞香 加藤貞子

說實院釋滋栄 加藤次郎

願主 加藤欽也(埼玉県)

為 正編院釋尼美香 鈴木みや

願主 前谷和昭(西丘組)

以上十一件

①祠堂金は、三分の二を順慶寺の什物拡充などに充てさせていただき、三分の一を護寺会金として、護寺会会計に積立をさせていただいています。

以下は、本年五十回忌(昭和46年没)で俱会一処を迎えた方の中で、当山納骨堂に納骨された方々です。

俱会一処該当事一覽(敬称略)

- | | | |
|--------|-------|----------|
| 1月21日 | 森 治市 | 森政重の父 |
| 2月14日 | 岡本鉄五郎 | 岡本克仁の父 |
| 3月11日 | 横山ふき | 横山弘の母 |
| 3月30日 | 鈴木之枝 | 鈴木正の姉 |
| 4月1日 | 塚本はま | 塚本正雄の母 |
| 5月2日 | 岡本みや | 岡本金平の母 |
| 6月4日 | 岡本たよ | 岡本隆英の母 |
| 6月17日 | 加藤金平 | 加藤キヨエの夫 |
| 7月10日 | 岡本かよ | 岡本光義の養母 |
| 8月9日 | 小林勝好 | 小林弘の父 |
| 8月15日 | 岡本銀蔵 | 岡本金平の父 |
| 8月31日 | 鈴木俊三 | 鈴木俊治の父 |
| 9月2日 | 杉浦金之助 | 杉浦吾夫の父 |
| 9月14日 | 加藤告松 | 加藤史直の養父 |
| 10月9日 | 相羽三五郎 | 相羽たま子の夫 |
| 10月19日 | 佐野良一 | 佐野末良の父 |
| 10月26日 | 塚本幸衛 | 塚本正幸の父 |
| 11月1日 | 小松み津 | 小松務の母 |
| 11月4日 | 岡本由之助 | 岡本福太郎の祖父 |
| 11月8日 | 池田はま | 池田敏正の母 |
| 12月15日 | 藤井たまき | 藤井美一の妻 |
| 12月23日 | 鈴置豊吉 | 鈴置吉美の父 |
| 12月30日 | 志水広市 | 志水はるの夫 |
| 以上二十三名 | | |

8月度護寺会物故者

釋善淨

7月29日寂 中川善博(81)

刈谷市 中川玉子様の夫

開悟院釋尼妙逸

8月3日寂 佐藤五枝(98)

名古屋市 石黒滋子様の母

真意院釋尼妙房

7月30日寂 神谷房子(79)

市場上組 神谷孝保様の妻

晴朗院釋興世

8月13日寂 清水興亞(81)

平松組 清水英介様の父

水舎に來襲する鳥に困ります 鳥対策の妙案求む

水舎に水を張った、お盆期間、暑さを癒すためでしょうか、再び鳥が水舎の水で水浴びをするようになりまし。

盆会の後、総代によって防鳥糸を設置しましたが、その後も鳥の水浴びは続いています。

コロナが終息したら、常時水を揚げる予定です。鳥による被害がでる前に、鳥除け策の妙案のあります方は、順慶寺まで一報をください。

編集部短信

◆分散盆会に参詣多数―八月九日に執り行った盆会は、法話もなく三十人ずつの分散型であったが、百名ほどの参詣があった。

◆鐘楼と水舎に防鳥糸―盆会の後、役員全員で鐘楼と水舎に來襲する鳥の被害に対処するため、高所にも関わらず防鳥糸を設置。

編集雑誌記

さる八月二十四日、前住職の百ヶ日法要が終わりました。百ヶ日になって、前住職からお助けをいただいたことを実感しています。今は、本堂で毎日お朝事、お夕事を欠かさず真面目につとめて、前住職のお心を繋いでいきたいと思っています(住)。

◆前住職百ヶ日終える―さる八月二十四日、前住職の百ヶ日法要を迎え、コロナのため休会になっている、お楽しみ会、おつみ会で追弔会を開催。夜には、責役四役他で、百ヶ日を勤めた。

コロナ、猛暑のダブルパンチで休日には家でゴロゴロしがちです。いざやる気を出して外に出ると、すぐ熱中症気味になってしまします。自分でもこれではいかんかなと思っています(若)。



9月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	火		
2	水		
3	木	↓ 新型コロナウイルスのため、法要行事を除く、本年の例会等は休会となっています。	木-1
4	金		
5	土		
6	日		
7	月		
8	火		
9	水		
10	木		木-2
11	金		
12	土	祠堂法要・俱会一処式(10:00～、順慶寺)	
13	日		
14	月		
15	火		
16	水		
17	木		木-3
18	金		
19	土		
20	日		
21	月		
22	火		
23	水		
24	木		木-4
25	金		
26	土		
27	日		
28	月	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺にて内勤め)	
29	火		
30	水		
10/1	木		

9月行事内容 詳細

祠堂法要・俱会一処式

9月12日(土)

午後10時 順慶寺

順慶寺に祠堂があがっている方に対する、祠堂法要を今年も厳修いたします。

本年は、新型コロナウイルスの影響が懸念されるため、三密を避け、左記のように地域別の分散型とさせていただきます。また、本来あるべき法話とお斎は、長時間同じ場所に留まることとなるため、本年は中止とさせていただきます。

ただし、同日、今年五十回忌を迎えた方のお骨を、納骨堂下に埋骨する俱会一処式は実施いたします。

記

祠堂法要日程

9月12日 午前9時半受付始

午前10時法要始

法要・順慶寺本堂
待機・順慶寺庫裏

10時～11時半 今川地区・三河地域

◎三十分おきに50名様を限度で
本堂にご案内いたします

(法話及びお斎はありません)

13時～14時半 泉田地区・尾張地区他

◎三十分おきに50名様を限度で
本堂にご案内いたします

15時 俱会一処式

◎俱会一処式の案内のある方は、
できましたら、俱会一処式の方に御参詣ください。

お知らせ

●祠堂法要の駐車場について

祠堂法要では、三十分ごとの法要を予定しています。そのため、駐車場の出入りの混雑が予想されます。当日、順慶寺駐車場が満車となった場合は、大変ご面倒をおかけしますが、指定の駐車場に案内させていただきます。

●祠堂法要のコロナ対策について

祠堂法要では、本堂他でのソーシャルディスタンス、受付でのシールド設置、アルコール消毒

の実施など、新型コロナウイルスに対する対策を十分に配慮してまいります。参詣される皆様も、マスクの着用をお願いいたします。

●年回法要の通知について

令和三年の年回法要の当たりをお知らせする通知ですが、新型コロナウイルスのため、八月まで自粛をしておりました。祠堂法要が終了しました、九月中旬以降、年回該当の皆さんのお宅に通知をさせていただきます。ご了承ください。

じゅんこのときめき歳時記 いおろぎ

八月も終わりになっているのに、今年はずっと暑いですね。学校でも、家でもクーラーのないところでは、つらくて過ごせません。

いつも、お盆を過ぎると、夜になると庭先でこおろぎなどの秋の虫の鳴き声が聞こえてきます。お父さんによると、どんなに暑い夏でも鳴かないときがないそうで、こおろぎが鳴くと秋を感じるそうです。

でも、今年は、八月の終わりになっても一向にこおろぎの鳴き声が聞こえてきません。なんだか、地球の環境がおかしくなっちゃったようで、少し怖いです。

お父さんが、おじいちゃんを作った寺報の第一号の標語は、こおろぎのことだったと教えてくれました。

セミにはセミの世界があり
こおろぎにはこおろぎの世界がある
一か、夏を生きるとは春秋を知らず
秋をいきるとおろぎは盛夏を知らない

寺報第一号から池浦良裕作

